南小学校のおたより

創ろう!みなみの愉快　探そう!みらいの舞台

― みんなの『THUMBNAIL』をつなげて ―

第０１１号（Ｒ０７．０５．１３）

～　「でも」という魔法の言葉　～

「でも」は、「逆説」の接続詞である。後続する文が先行する文と反する関係であると示されている。

①マイナスに導く魔法

Ｂ「Ａさんは、地区大会で優勝したんだって。県大会に出場するみたいだよ。」
Ｃ「優勝はすばらしいですね。」

もし、Ｃさんが「でも、Ａさんは大会で疲れているからと言って、係の仕事をあまりやってくれないんだよ。」と続けたら、Ａさんを責めることになります。係の仕事のことは、そのときに解決した方がよかったと思います。

また、Ｃさんが「でも、私は試合で勝てないんだよね。」と自分を責めることも考えられます。

ここで、Ｃさんが『Ａさんをほめること』で終わらせれば、関係は悪くありません。または、Ａさんががんばっていることを事実として受け止め、自分の未来のエネルギーにできればすばらしいですよね。

②プラスに導く魔法

Ｄ「先生、聞いてよ。親が『宿題を早くしなさい。』って、うるさいんだよ。」
Ｅ「『宿題を早くしなさい。』って言われると、気持ちが沈んでしまうよね。」

もし、Ｅ先生が、「でも、親が『あなたに宿題を早く終わらせたい。』と言うことは、何か理由があるのかもしれないね。」と問いかけたらどうでしょうか。

子供は、その理由について考えます。例えば、「早く宿題をしないと眠くなってしまう。」や「早く宿題をしないと、ゲーム三昧になって、宿題を適当にしてしまう。」と考えるかもしれません。

この問いかけで、自分自身と向き合ったり、保護者との関係を修復したりする可能性があります。気持ちで受け止めながら、お互いをＲＥＳＰＥＣＴできるとすてきですね。